

取組名称	こんなこと聞いてみたかった、農薬のこと
開催日	平成20年11月18日
目的	ADIの意義（超えなければ健康影響はない）を関係者で再確認し、過度な不安に陥らないようにする。
主な対象者	消費者
目標	農薬に対する疑問、不安について、消費者がどのように考え、整理すればよいか、考えるきっかけをつかんだり、気づいてもらう。 残留農薬対策の実態（生産者）、監視指導状況（自治体）、消費者の認識（消費者）、情報提供（マスコミ）について、情報交換を行い、相互理解を図る。（現状把握と理解）
メインメッセージ	ADI、検出された量（低濃度）の意味、 残留基準を越えていても、ADIを越えていない場合は、健康に影響がなく、過度に不安を抱く必要はない。
議事	< 司会進行 > 小平 均 （内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官） ファシリテーター：全国消費者団体連絡会事務局長 阿南 久 パネリスト： 株式会社アジア食品安全研究センター技術顧問 佐藤元昭 全農グループ茨城・県域営農支援センター 澁谷栄一 群馬県健康福祉部食品安全局食品安全課次長 須野原 修 厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課課長補佐 東野正明 農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室課長補佐 堀部敦子 食品安全委員会 長尾 拓
企画上のポイント	“消費者の疑問に答える”という構成とし、消費者団体との共催とした。 事前にHPで、農薬に関する疑問、質問を受け付け、寄せられた質問等を含めて、当日取り扱う質問項目とした。 3府省連携のもと、生産者、地方自治体、海外における取組みなど、フードチェーンにおけるそれぞれのとりくみ、つながりがわかるようなパネルディスカッションとした。 当日使用した資料は、農薬の安全性に関する勉強会においても各方面で活用できるよう、当日の意見交換の内容などを盛り込み、再編集する。 （現在作業中）

食品に関するリスクコミュニケーション(東京)
—こんなこと聞いてみたかった、農薬のこと—
アンケート集計結果

開催日:2008年11月18日(火)

Q1 以下の設問についてそれぞれあてはまるものを1つ選んで番号を○で囲んでください。

Q1-1 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	67	59.3%
2. 女性	46	40.7%
無回答	0	0.0%
合 計	113	100.0%

Q1-2 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	10	8.8%
3. 30歳代	19	16.8%
4. 40歳代	29	25.7%
5. 50歳代	30	26.5%
6. 60歳代	21	18.6%
7. 70歳以上	2	1.8%
無回答	2	1.8%
合 計	113	100.0%

Q1-3 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	24	21.2%
2. 主婦、学生、無職	3	2.7%
3. 畜産関係生産者	1	0.9%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 農林、畜産・水産以外の生産者	2	1.8%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	42	37.1%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	0	0.0%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	16	14.2%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	2	1.8%
10. その他	19	16.8%
無回答	4	3.5%
合 計	113	100.0%

その他

労働者福祉中央協議会
自由業
検査会社
化学工業製品販売会社
(社)全国消費生活相談員協会「食の研究会」
金融業
農薬分析など
化学分析会社
商社
農薬受託製造メーカー
食の安全と安心のコンサルタント
農薬会社
政策関係
公益法人
保険
商社

Q1-4 本日の意見交換会開催をどこでお知りになりましたか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	30	26.5%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	11	9.7%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	21	18.6%
4. 関係団体からのご案内資料	27	23.9%
5. 知人からの紹介	8	7.1%
6. その他	14	12.4%
無回答	2	1.8%
合計	113	100.0%

その他

農水メールマガジン
日本農業新聞
業界紙化学工業日報×2
農水省HP×4
他情報メルマガ
食品安全エクスプレス
農林水産省
化学工業新聞
厚労省のホームページだったと思います…。
厚労省メール配信
パネリストからの連絡

Q1-5 食品安全委員会が実施する意見交換会には、本日で何回目の参加となりますか。

回答内容	件数	割合
1. はじめて	63	55.7%
2. 2回目	15	13.3%
3. 3回目	14	12.4%
4. 4回目	5	4.4%
5. 5回以上	15	13.3%
無回答	1	0.9%
合計	113	100.0%

Q1-6 あなたは「100%安全な食品はないこと」についてどう思われますか

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	71	62.8%
2. ややそう思う	36	31.8%
3. あまりそう思わない	2	1.8%
4. 全くそう思わない	1	0.9%
5. わからない	1	0.9%
無回答	2	1.8%
合計	113	100.0%

Q2 本日の意見交換会の内容について伺います。
以下の設問について、あてはまるものを1つ選んで番号を○で囲んでください

Q2-1 本日の意見交換会に参加された目的はどのようなものですか？

回答内容	件数	割合
1. 農薬について、疑問に思うことがあったから。	4	3.5%
2. 農薬の安全性評価について、知りたかったから。	15	13.3%
3. 農薬について、どのような施策がとられているのかを知りたかったから	15	13.3%
4. 国内の生産現場における農薬の使用、管理状況について知りたかったから。	3	2.7%
5. 海外の生産現場における農薬の使用、管理状況について知りたかったから。	3	2.7%
6. あらかじめ農薬についての質問を出したのでその回答を知りたかったから	0	0.0%
7. 他の参加者の考えや意見を聞きたかったから。	23	20.3%
8. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	28	24.8%
9. その他	4	3.5%
無回答	18	15.9%
合計	113	100.0%

その他

農薬の勉強
消費者の方々の考えが知りたかった
同一検体に多種の農薬が同時に残留に関するリスク評価・コミュニケーションが必要であると考えられる。
新たな切り口でのリスコミであることや農薬について総活的学習の場にもなると考えたので
農薬の使用と食品の安全・管理に対する行政の推進方策を知りたかった

Q2-2 上の質問(Q2-1)でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会は満足できるものでしたか？

回答内容	件数	割合
1. 充分満足した	6	5.3%
2. ほぼ満足した	56	49.5%
3. あまり満足できなかった	28	24.8%
4. まったく満足できなかった	3	2.7%
5. どちらでもない	6	5.3%
無回答	14	12.4%
合計	113	100.0%

Q2-3 "あまり満足できなかった""まったく満足できなかった""どちらでもない"と答えた方に伺い本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

質問する側の内容が練られていないので、事前に質問を受ける形式がよい。とりとめのない意見、質問が多すぎる。同じ参加者として迷惑です。迷惑な一部の参加者をなんとかして下さい
いつも感じるが国からの「〇をやりました」という業務の為の会合の様に感じる「リスコミ」の本当の内容ができる様議論のやり方、基準の決め方再度見直してほしい
コミュニケーションとなっていない。ワンウェイ
各項目の掘下げが足りない
農業使用を可とする流れを強く感じた
時間がみじかかった。
極端な質問者にかきまわされ気分を害した
いっしょに考えていくというより、現行法が正しいという押しつけだった
・机上の空論を聞かされた ・これをどうやって守らせるかを知りたかった ・岩手の農家の方頑張って！私達消費者は知りませんでした
まず国民消費者にコミュニケーションをとるのに関係者が前列で一般の消費者(今回の対象者)が後列になるのは、どうか？
時間が少し足りなかったと思います。
口管説明のみの部分が多く、資料上に明記して欲しかった
時間的に内容がこく、回答が伝わりにくかった
参加者の意見、考えを言う時間が少ない
もり込まれた情報が多すぎて、かえって核心がぼけたような気がした
農薬の安全使用についての担保に不安
会場との意見交換が不十分(時間不足)・なぜ安全なのかの説明不足
基準となっている数値に安全性を考慮した数値をかけているが、その「基準となっている数値」の根拠をもっとつこんだ形で教えてほしかった。
質問に対する回答の時間をもう少し長くしてほしい
厚労省の方の説明がわかりにくい
ミツバチ、有機農法など本題になじまない意見に時間を割かれてしまった点。
举手した人に、偏った意見の人がいたので、もっと一般的な意見が聞きたかったです(できれば消費者団体の方でもない一般の主婦など)
質問の時間が不充分すぎる
時間が足りず論議不足
・農家(&食品加工者)に於る自主検査についての取り上げ方が少かった。 ・自主検査は出荷前のものについて、と云う表現があったが、GC/MS、PLC/MS/M Sは時間がかかり、そのようなことは出来るとは考えられない。 ・規制値を十分に厳しくしてるから安全だと云う姿勢は信頼性に欠ける。むしろ、トレーサビリティも含み、信頼する体制で自主検査をしているので安全だと云うことになって欲しかった
施策をとっていることは理解しましたが、それがどうして今回のギョーザ事件だったり様々な事件が出てしまうのか、つまり、消費者生活に浸透していないのではないかと、とうたがってしまいます。
加工食品の残留農薬について、教えて欲しかったので…。
厚労省のパワーポイントの資料に工夫を
関係者(自分も含め)が多く、本当に農薬のことが判らない人の出席が少なすぎる。又、野田大臣のおっしゃる通りレベルが高すぎる
前半のお話は、基本の「基」だったので、今更、聞くのは…、という感想です
質問に答えるという形式で非常にわかりやすかったが、概論すぎてその背景がわかりにくい
中国の取り組み、日本の対応は理解できたが、ではなぜこのような汚染食品が流通してしまったのか説明頂けたらよかった
的はずれな質問と、それに対する建前の回答
本質をもった話がない。農薬を使って60年一過去を調べない食も農もいのちを基本にしてない

Q2-4 今後、ある野菜に、残留基準値を超えた農薬が残っていたことを知った場合に、消費者として、あなたはどのような対応をしたいと思いますか。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 残留基準値を超えたことを聞いてからしばらくは、その食物やその産地で作られた野菜は買わない、または、買うの控えると思う	25	22.1%
2. その農薬についての安全性に関する情報を収集してみたいと思う。	42	37.1%
3. 残留量に関する情報に注意し、健康に影響があるかどうかを考えてみたいと思う	46	40.7%
4. "減農薬" "無農薬"を謳った商品を探して買うと思う。	5	4.4%
5. 生産者や輸入業者など、生産現場に近い関係者に相談したり、事実確認をしてみようと思う。	6	5.3%
6. その他	7	6.2%
無回答	6	5.3%
合計	137	

6. その他

まったく気にしない。今まで通り買う
議論から本質が見えない
日頃より心がけている有キ農産物等を食しています
原因は何かを知りたい(農家ひとりひとりの意識はちがう)特に輸入品が問題
何故残留農薬の基準に不合格なものが、消費者の元にまで届いてしまったかを追跡してみる。
3-5の手段を取りたいと思うが、個人の努力ではなく、消費者へいち早く正しい情報を流してほしい。誠実に
報道はおおげさ過ぎるので、行政筋からの情報を信じる。

Q2-5 本日の意見交換会の進め方について伺います。
会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせ下さい。

a. 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	10	8.8%
2. 適切だった	79	69.9%
3. あまり適切ではない	9	8.0%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	15	13.3%
合計	113	100.0%

b. 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	6	5.3%
2. 適切だった	80	70.8%
3. あまり適切ではない	18	15.9%
4. 全く適切ではない	3	2.7%
無回答	6	5.3%
合計	113	100.0%

c. 配付資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	10	8.8%
2. わかりやすかった	88	77.9%
3. わかりにくかった	6	5.3%
4. 全く分からなかった	1	0.9%
無回答	8	7.1%
合 計	113	100.0%

d. パネルディスカッションでの議論

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	10	8.8%
2. わかりやすかった	79	69.9%
3. わかりにくかった	7	6.2%
4. 全く分からなかった	1	0.9%
無回答	16	14.2%
合 計	113	100.0%

e. 会場からの質問・意見についての応答

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	9	8.8%
2. わかりやすかった	57	50.5%
3. わかりにくかった	24	21.2%
4. 全く分からなかった	6	5.3%
無回答	17	15.0%
合 計	113	100.0%

f. 意見交換会全体

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 評価する	22	19.5%
2. おおむね評価する	64	56.6%
3. あまり評価しない	13	11.5%
4. 全く分評価しない	1	0.9%
無回答	14	12.4%
合 計	114	

Q3 本日の意見交換会の内容について、それぞれ当てはまるところを○で囲んでください。

① 農業の安全性について、理解できましたか。

回答内容	件数	割合
1. よくわかった	27	23.9%
2. ほぼわかった	61	54.0%
3. わかりにくかった	13	11.5%
4. 全く分からなかった	0	0.0%
無回答	12	10.6%
合計	113	100.0%

② 農業についての疑問が解消されましたか

回答内容	件数	割合
1. 十分解消された	13	11.5%
2. だいたい解消された	56	49.5%
3. まだ解消できていないところがある	31	27.5%
4. 全く解消されなかった	5	4.4%
無回答	8	7.1%
合計	113	100.0%

Q4 本日の意見交換会に参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、この意見交換会で明確になりましたか？

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. とても明確になった	6	5.3%
2. ほぼ明確になった	49	43.4%
3. 明確にならなかった	27	23.9%
4. さらにわからなくなった	1	0.9%
5. 疑問に思うことや質問はなかった	11	9.7%
6. その他	3	2.7%
無回答	17	15.0%
合計	114	

6. その他【具体的に】

更に詳しい内容なので
農産物の安全のむずかしさを感じた
問2と同じ(基準となっている数値に安全性を考慮した数値をかけているが、その「基準となっている数値」の根拠をもっとつっこんだ形で教えてほしかった。)

Q5 今日の意見交換会では、説明が足りなかった、もっと聞きたかった、もっと議論すべきだったことなどがありましたら、お書き下さい。

「人間の口に入るもので安全性が確認されているものは、医薬品と農薬と添加物だけである。自然にさいばいされているやさいや米などの安全性の確認はされていないのだと、一般人におしえてあげた方がいいと思う。あと、判断の仕方です。「ベネフィットと、リスクを定量化するくせをつける」というのはなしをした方がいい。「人生はせんたくのれんぞくである」という言葉がありますが「何かを得るといことは、何かを捨てる」ことでもあるからです。
ポストハーベスト、ポジティブリスト施行後の近接散布による汚染問題
環境と農薬の関連を水からのみ考えることから昆虫まで広げる必要あり
農薬を使わねばならないのはなぜか、もっとしりたかった。農薬を使わない農法について、少しでもいいからふれてほしかった。
会場との意見交換にもう少し時間をさいてほしかった
国民の不安をあおっているのは、毎日マスコミがとりあげているような事例である。こういうニュースになったことについて、本当のところ、安全性はどうか説明して欲しい。(たとえば質問のあったみつばちの例など)
個々の農薬の分解性について
関係のない質問はとりあげないようにすべき
農薬でみつばち(ようほう家の)が大量死、米作中心に他を考えない農政は問題では。環境影響をも考えて、共存できる方法を積極的に検討すべき。ようほう家の経済的利益を無視するのはどんなものでしょうか
★消し者の知りたいQuestionsからはいって、関係者が役割分担して、説明する方式はよかったですと思います。 ★また、それぞれのコメントーターが、よりわかりやすく、表現する、理解しやすいスライドを使うという努力をされていて、たいへんわかりやすかったですと思います。
当日資料のため、読み込む時間がないのと、ゆっくり聞くことができなかった。
酔狂質問には答えなくてよい
・検査結果の公表等について、どこでどのように行っているか。どの様な結果が公表されているか。・基準値については分かったが、具体的な例があまりなかったの、それが多いのか、少ないのか、ピンとこない
中国の取り組みの説明を聞いて、司会者は「これを聞いて中国の取り組みが良くわかった」と言ったが、サラッと聞いただけでわかるの？司会者が、そう言っちゃいけないよ。ファンリターターということじゃないの？
パネルディスカッションを最低1テーマぐらい(例:ポジティブ制度の問題点、一律基準の功罪)はやって欲しかった。
総論の話であったが、現状ではしかたがないのかもわからない。がもう一歩つっこんだ物を期待していた。
複合影響について最も知りたかったので、少し不足に感じました。リスク評価の方法などを知りたい。今後、一件(検体)から多成分同時検出された場合の評価についての考え方をHPなどで公表してほしい
どれくらいの質問を集計したのでしょうか？(今回開催されるにあたり)
残留農薬がファイトケミカルよりずっと少ないということを使った方がいいのでは？
厚生労働省の方の説明が法律の説明等に終始していてわかりにくかった。
生態系への影響に関して、有用・無用を決めているのは人間です。害虫に交信かく乱剤を使用することにより、めぐりめぐって有用動植物に影響が及ぶことはないのかなど、ちょっと気になりました。
ADIは一生食べても安全ということだが、遺伝的な部分については議論がなかったが…
内容は良かったがQ&Aとしては、どうかと思う回答もあった
基準値を超えてしまったが全く健康危害がない場合、回収すべきなのか、食品廃棄という別の視点での行政からの指針、指導が欲しい。(特に0.01という一律基準値の意味について)
本日のプレゼンはすべて基本的情報(総論)。さらに深く詳細な議論(各論)の場を設けてほしい。
質問9の厚労省の方の答え。正しい答えなのだろうと思うがきわめて分りづらい。リスクは分りやすくなければダメ。
個々の農作物の残留基準について、決め方について説明して頂きたかったと思います。

次ページに続く

前ページ続き

<p>1. 全般に自主検査の必要性に欠けていた。 2. 自主検査にはポジティブリストの規制値に対応する検査方法で迅速コスト的にリーズナブルなものがないか、将来技術開発が行われる可能性はあるか知りたい。 3. 自主検査の結果を公開する方向に行くべきですが、トレーサビリティの中で表示などの方法、などで組込んで行くべきです。</p>
<p>行政側の行っている規準などは理解できましたが、それを消費者へどのように広めているのか、また広まっていると把握されているのか、実体をどのように把握されているのかを聞きたいと思います。</p>
<p>質問に対する答えるパネリストの説明・報告という形として進めるには、より募集方法や内容基準をわけたら対象がまとまって、ディスカッション・質疑応答が有意義になったのではないかと思う。</p>
<p>先ほども書きましたが、加工食品に関する残留農薬について聞きたかった。農作物より、加工食品の方が顔が見えないので、もっと見える化、をして頂きたい。</p>
<p>消費者の質問をもとに説明を組み立てるのは、構成上よかったと思いました。いろいろ会場で質問を聞いて答えるよりもずっとよかったです</p>
<p>・参考スライドについても1言あってほしかった ・スライドはわかりやすいと思う</p>
<p>具体的な事例についてご説明、ご紹介をしてもらいたかった。</p>
<p>残留農薬検査をする際に、何をもってまると調べるのか</p>
<p>今後の展望</p>
<p>農薬の半減期と使用基準のだし方を具体的な方がいい→科学的にどうして分解されるか教えてほしい</p>
<p>参加者の意見、質問に対する回答が不十分である。納得できる説明をすべき。農水省の回答は聞き直りとしか言いようがない。事故米と同じ行政の発想がここにある。こんな内容はリスクコミュニケーションとは言えない(やっているだけのポーズでしかない)</p>
<p>農林水産省と厚労省という2つの組織が農薬に関する基準を取り締まっているが、何故か？</p>
<p>特殊な思想をお持ちの方の発言は、不快です。そういう場ではないので、制して頂きたいと思いました。無農薬、無添加等の思想は、科学的ではありません。それで国民の食糧を満足にまかなえるわけはありません。</p>
<p>農薬がすべての命をうばうこと、自然をこわすこと、自然を汚すこと、地球をこわすこと、これがないし、安全をカンバンにしていっていいわけをしてるだけ</p>

Q6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものが

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 委員会、専門調査会が一般の人にも傍聴が可能なこと	61	54.0%
2. 食品安全委員会ホームページ(http://www.fsc.go.jp)	87	77.0%
3. 食の安全ダイヤル(食品の安全性についての情報提供)	43	38.1%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	52	46.0%
5. 食品安全モニター制度	40	35.4%
6. 季刊誌『食品安全』	45	39.8%
7. 食品の安全性に関する用語集	37	32.7%
8. 食品の安全性に関する政府広報	36	31.9%
9. その他	1	0.9%
無回答	18	15.9%
合計	420	

9. その他

ありません。これから利用してみたいと思いました。

Q7 上記で選択したものを含め、会全体を通してご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせください。

1	パネリストの皆さんの連携プレーが素晴らしく、まるで編集されたTV番組を見ているようでした。(ほめ言葉ですが、ちょっとできすぎでやらせっぽく受け止めた人もいたかもしれません)スライドは写真やイラストが豊富で分かりやすかったです。マスコミに流されやすいタイプの人が関心を向けてくれるよう、このような場を地道に設け続けてください。堀部さん、風あたり強いかもしれませんが、応援しています！
2	日本は何も考えないで安全、危険を考えずに食品を買って食べるができなくなったのか？
3	堀部様(農水省)の懸命かつ卒直なご回答に感銘を受けました。相手も必死で質問してるからこそ、それがどんなに的外れな意見であっても必死で答える、すばらしいリスクミタと思いました。
4	会場がせますぎた。
5	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省の担当者の説明が適切でない場合がある(ARFDの説明) 残留分析方法の見直しが必要なのは(もも等) 皮と実の残留濃度の違いが説明されていなかった。安全議論とは別に洗浄方法等の研究もあっても良いと思う
6	会場からの意見や質問について。 * あらかじめ、一人2分以内でまとめることをお願いするといひ。 * その際、2分が過ぎた時、ベルを使って合図するといひ。
7	単に規制値を厳しくし、罰則さえつくれば農薬の安全は保たれると云う考えが根幹に考えておられると感じます。消費者の信頼がない理由をもっと真面目に考えて見るべきです。それには、自主検査とその結果の開示をとり上げるべきです。検査も公定法であるクロマトグラフ系のものだけに頼るとコスト的にスピード的にも生産者も消費者もついて来なくて絵に画した餅になります。リスクにふたをしたようなものです。自主検査の手法にもっと真剣に取り組むべきです。普及、技術、手法の開発、官庁レベルの権威主義の方の■■■■■■■■です。少生、食の安全と安心のコンサルタントとしてこれ等に取り組んでいます。
8	はじめて参加しましたが、このような会はもっと大きくやっていくべきだと思います。
9	このパネルディスカッションについて、内容をHPなどで公表して欲しかった。なので、意見交換が主旨とあっているのかが、良くわかりませんでした。加工食品の農薬もですが、もっと農薬のことを良くしりたかったです。リスクコミュニケーションという、名前もわかりづらいう気がありました。
10	群馬県の方が「一番のアピールは報道機関から」と言ったが、国や自治体からきちんと発表するのが大事だと思う。
11	農薬不要論者の意見、スジ通らない。
12	HPIばかりでなく、いろいろな形でもっと情報を流して下さい。このような物ももっと多く、地方でも開いて下さい。大変でしょうがよろしくお願いします。
13	大変有意義でした。ありがとうございました。この様な会は全国で開催してほしいです
14	「農薬」という言葉自体を拒絶する人(リスクの大きさなどの観点がでない人)に対してどのように伝えていくかは今後の課題だと思います。
15	全体を通して気になったのが言葉の使い方です。例えば、農薬適正使用推進員制度、ポジティブリストです。基準となるのは、農薬は本来必要悪(消費者側としては)であるということではないでしょうか。その意味では「推進」「ポジティブ」はふさわしくないのではないのでしょうか。視点は「安全」「安心」と思います。ありがとうございました。
16	野田大臣のメッセージを実現してほしい
17	頑なにオッサン程始末におえないのでどうにかしてほしい。
18	P42. 健康への影響がない(から〇〇する)→この部分を行政に明確にしていきたい。ノーリスクの食品はないということ、安全は確率であること等のリスクについての考え方をアピールが必要と感じます。リスクコミュニケーションの半分(安全性の方)が多かったと思うので危害の部分について足りないと思います。基準値が慢性毒性が対象ならば、単発の基準値オーバーには違う評価が必要ではないのでしょうか？
19	報道にも問題がある。わかりやすい情報提供が必要である！
20	場としては良いと思いました。
21	リスクコミュニケーションは、一部の特殊思想の人達とはそもそも、コミュニケートできません。不満のはけ口の場ではないはず。私達多くの国民は、「行政」を信じております。がんばって下さい。「国が悪い」と言うことは「そういう国にした国民の総意」の結果です。国家の品格を守っていきましょう。
22	意見の片よったおかしな人間や精神疾患者の意見でダイ無しになった。
23	もっともっと生活者である国民の話を聴くこと、マニュアル化するな！！国民のいのちにふれる仕事をしろ！！